

肥満予防に植物成分効果

京都医療センターなど マウス実験で特定

植物に含まれる物質「タキシン
フォリン」が肥満を予防、改善
する効果があることをマウスで
確かめた。京都医療センター
(京都市伏見区)や名古屋大な
どのグループが20日発表した。
新たな治療薬につながる可能性
があるという。

同病院によると、国内で肥満
は2千万人以上いる。うち約
3割が合併症「非アルコール性

や体脂肪が、何も投与しなかつ
た場合に比べていずれも約3割
少なかった。

既に肥満になったマウスの実
験では、体重は減少しなかった
ものの糖代謝や脂質代謝が大幅
に改善。さらに肝がんへの進行
を抑制する効果も確認できた。
エネルギー代謝に関わるタンパ
ク質を活性化させる作用が働い
たとみられる。

合併症や肝がんも改善

新たな治療薬開発へ

脂肪肝炎 (NAFLD) を発症
し、中には肝硬変や肝がんに至
るケースもあるが、主な治療法
は食事や運動など生活習慣改善
に限られている。

グループは、シベリアに自生
するマツなどに含まれるポリフ
エノールの一種、タキシフォリ
ンに着目。マウス6匹に毎日投
与した上で高カロリーの食事を
与えたところ、12週間後の体重

タキシフォリンを含むサプリ
メントは国内外で市販されてい
るが、具体的な効果や仕組みを
解明したのは今回が初めてとい
う。医薬品開発に向けてグルー
プは今後、ヒトでの治療を行っ
予定。同病院臨床研究センター
の浅原哲子部長は「新たな治療
戦略につなげたい」と話してい
る。研究成果は欧州科学誌にこ
のほど掲載された。(森大樹)